

雲林寺報

第3号

2009年夏号

吾妻郡長野原町73

大洞山 雲林寺

TEL0279-82-2201



4月3日 大般若 転読

お子さんに伝えておきたい
こんな時の仏事作法の基本

雲林寺住職 轟 紀久

お葬式やご法事にお子さんが参加することは少なくありません。

日常と違う雰囲気の中で、緊張は高まるばかり。お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんにお願ひします。機会をみて、仏事作法の基本を教えてあげて下さい。その教えは大人になってからも役立つに違いありません。

① 仏教徒の挨拶は合掌です。

文字通り掌(たなごころ)つまり左右の手の平を合わせることを合掌といいますが、指と手の平をピタリと合わせるのが基本です。

② 礼拝(らいはい)はゆっくりと

礼拝はまず背筋をまっすぐ伸ばして合掌をします。そして、そのままゆっくりと頭を下げると美しい礼拝になります。

③ お焼香はあわてずいいねいに・・・

立って行う時は、焼香台の前に進み、ご本尊や遺影に向かって合掌礼拝します。次ににお香を親指と人さし指、中指の三本指で軽くつまみ、こぼれないように左の手の平で受け、軽く捧げてから香炉に少しづつゆっくりと落とします。座って行う焼香はまずご仏前やお仏壇の前に進み座布団の一步手前で一礼した後座布団に上がり、合掌礼拝をします。そして焼香を終えて座布団より下がり一礼して自分の席に戻ります。

④ お線香を上げる時には・・・

お線香をたむけた後、合掌、礼拝すると良いでしょう。作法は心の表現ですから、正しく心をこめて行う事が大切である事をお子さんに教えて下さい。

仏事作法を教える事は、お子さんの「やさしい心」「み仏や自分以外の人を敬う心」を育てる、大切な家庭教育にほかなりません。

曹洞宗第六教区護持会主催 国宝瑞龍寺と総持寺祖院参拝 能登半島和倉温泉1泊2日の旅

期日：平成21年10月28日(水)
～10月29日(木)
宿泊：和倉温泉ゆけむりの宿
美浜荘

費用：36000円
募集人員：90名

恒例となっております「六教区護持会」主催の参拝旅行。今年は総持寺祖院を中心に能登半島を巡ります。是非お誘い合わせのうえご参加下さい。

総持寺祖院・・・元享元年(1321年)に瑩山禪師が開き、永平寺と並ぶ曹洞宗の修行寺として栄えてきました。その後、明治31年(1898年)の大火で多くを焼失し、本山は神奈川県鶴見へと移されました。現在では、祖院として、大本山のおもかげを偲ばせる幽玄な寺院となっています



4月からの行事報告

四月三日、大般若会がとり行われました。

大般若会は、日本では奈良時代から始まり、主に国の繁栄や除災招福を祈願して大般若経六百巻を誦読（どくじゆ）して行われる法会です。大部の經典なので、お経を一巻ごとバラバラと翻ひるがえして読む仕方で行われ、これを転読（てんどく）とい

います。
雲林寺では曹洞宗六教区（吾妻地区）の僧侶の皆様協力して頂き、今年も総勢十五名での転読がなされました。勇壮な声を上げて諸魔の降伏と、諸縁成就を祈念して読みあげられました。
四月八日は、花祭り（お釈迦様の誕生日）でした。本堂に花御堂を飾り、甘茶を容れた甘露盤の中に「誕生仏（たんじょうぶつ）」を安置し、小さな柄杓を備え、お像の頭上より甘茶をかけてお祝い致しました。



4月3日大般若会



4月8日花祭り



観音堂回向の様子

はいちーず!



応桑小学校4年生の皆さんが六月十七日長野原役場見学の後、昼食休憩へ来られました。本堂前で担任の先生と記念撮影の様子です。

護持会報告



本堂裏の木をクレーン車より伐採

4月より本堂裏の伸びきった木を伐採しました。本堂屋根にふりかかるものもあり非常に危険な状態でした。今回はクレーン車の事情で全ては伐採できませんでしたが、

再度機をみて伐採し、安全な状況をつくりだしていこうと思えます。



本堂前に並べられた枝。長さ5～6メートルにも及びます。

だるま 達磨棚完成

本堂待合室にある、達磨の棚が完成しました。この達磨は住職が三十年代に集めたものです。本格的な木彫りの達磨からかわいいうキャラクター達磨まで数百体が並んでいます。是非ご覧ください。



※達磨（だるま）は中国禅宗の開祖とされている人物。南インド王国の第三王子として生まれ、5世紀後半から6世紀前半、中国で活躍。確認されているだけで曇林、慧可の弟子がいる。

塔婆って何？

塔婆とは、詳しくは「卒塔婆」と書き、古代インドの言語、サンスクリット語（梵語）の「ストウーパ」から来たものです。

法事の時に建てるのは板塔婆で、頭部が独特の形をしています。これは宝珠・半円・三角・円・方の五輪塔を模したものです。五輪とは、空・風・火・水・地という宇宙を構成する五つの要素をいい、またそのまま仏身を現したものです。

●塔婆供養の功德
お塔婆は仏様の身体そのものなので、それを建立する功德が種々に説かれています。

- ① 塔婆はそのまま仏様の御姿であるから、一基建立することは、仏像を一体建立するのと同等の功德がある。
 - ② 塔婆を見ることは、人と仏様とは五輪（頂・面・胸・腹・膝の五処）のすがた・かたちとして、根本において同じであることを教え、仏心の目覚めを促すはたらきをもっている。
 - ③ 塔婆を建てることにより、仏様に対する崇敬の念と、靈位に対する報恩と感謝の念を増すことができる。
 - ④ 塔婆供養は、回向するところの靈位を安樂の境界に導き、仏果を増す。
 - ⑤ 塔婆は、志すところの靈位のみならず、それを目にするものすべて（衆生もろもろの生き物）に、同じく利益を及ぼすことができる。
- ということです。お経に説かれているの

新盆とは？

お盆は正式には、盂蘭盆（うらぼん）と言いますが、故人が亡くなられてはじめて迎えるお盆は新盆（あらぼん）又はにいぼんと言っています。特に手厚く供養いたします。亡くなって四十九日（忌明日）になる前にお盆をむかえる時は翌年が新盆となります。

八月五日、浅間山の「天明の大噴火」の供養祭が雲林寺参道内で行われました。今年には元高校教諭で浅間の噴火の研究者である松島榮治先生をお招きし「噴火で埋まった村の発掘調査から…いのちと家族について考える」のテーマで講演頂きました。

長野原町は天明の大噴火（一七八三年八月三日〜五日）で死者数は孀恋村鎌原の次に多い人口の半分にあたる約二百人、七十軒の家屋が倒壊し田畑の八割が被害に遭いました。雲林寺も柱二本だけを残り泥流に消えましたが地元の有志が集い倒壊した寺を再建しました。その時に亡くなった人を供養するため高さ一・六メートルの地蔵を建立しました。

天明噴火供養祭

平成十六年八月、当山近くの145号谷いで天明の噴火で埋まったとき、火が埋まったとき、こちらにも参道内にも浅間の大噴火が、浅間の人々を苦しめたか、また生存者の努力により、今長野原町がある事を忘れてはなりません。



世話人さん紹介

今号より世話人さんをランダムでご紹介させていただきます。
①名前②担当地区③血液型④趣味⑤人生で一番嬉しかった事



- ① 塩野英介さん
- ② 大津
- ③ O型
- ④ 農作業・野球観戦・野球解説
- ⑤ 孫がはじめて「おじいちゃん」と呼んでくれたこと。



- ① 湯本定由さん
- ② 長野原
- ③ A型
- ④ 昔は野球、現在はゴルフの練習をはじめました。
- ⑤ 長女が群馬大学に入学卒業し、教員試験に合格したこと。

雲林寺ホームページがスタートします。 <http://unrinji.jiin.com> 是非ご覧ください！



TEL&FAX 0279-82-2201 e-mail: unrinji@peach.plala.or.jp

<http://unrinji.jiin.com>

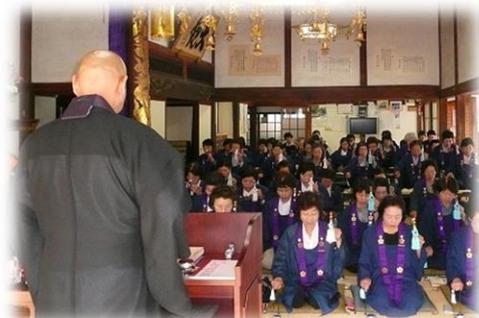


梅花流たより



去る六月九日、梅花特派布教師の巡回が行われました。今回は茨城県大子町より龍泰院住職出村尚英老師をお招きし、当雲林寺を会場に常林寺講、無量院講の皆様、約九十名の講員さんが九時半開会、途中昼食をはさみ午後三時閉会まで熱心に受講されました。

十一月十一日、第五十二回梅花流群馬県奉詠大会が利根沼田市文化会館を会場に行う予定となっております。



龍泰院出村老師による講義風景

今年は大本山総持寺前貫首であり、福井県御誕生寺御住職の板橋興宗禪師を迎え、講話をされます。県大会に向けて、課題曲を中心にこれからの練習していきます。梅花の県大会がどのようなものかご覧になりたい方はどうぞご連絡下さい。随時講員を募集しております。



熱心にお唱えする講員さん

第1回雲林寺親睦ゴルフコンペ

☆檀信徒限定!! 参加者募集中☆

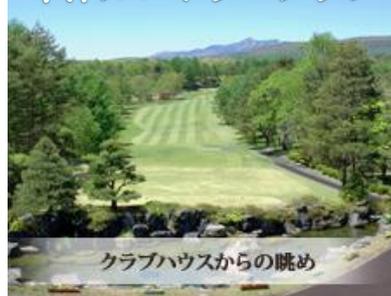
開催日:平成21年10月12日(月・祝)

集合:草津カントリークラブ 8:00 / 8:45スタート

募集人員:40名 参加費:12000円(プレー費・パーティー代合)

プレー終了後、雲林寺本堂で結果発表、景品授与等パーティーを開催致します。各地区の世話人、又は雲林寺へ直接お申込み下さい。

草津カントリークラブ



クラブハウスからの眺め

編集後記

去る六月二十一日、私が実行委員長をつとめさせて頂きました。群馬県曹洞宗青年会主催による一泊二日の「禅の集い」が迦葉山にて無事終了しました。

今年で第四十七回を迎えますが、五十三名もの参加者が集まり、当雲林寺からも檀信徒の方八名がご参加下さいました。お忙しい中、誠にありがとうございます。終了後、「気持ちすっきりした」「穏やかな時間が過ごせた」等参加して良かったとお言葉を数多く頂戴しました。

今回は「和合」というテーマで坐禅会を行わせて頂きましたが、青年会員、参加者が共に手を取り合って参禅する姿をまのあたりにすると沢山の人の力を改めて思い知らされました。

日々の生活の中にもこの「和合」の精神をもって大自然に生かされていることに感謝しつつ弁道精進したいものです。

副住職 轟 省吾

53人が座禅体験

県曹洞宗青年会(堀沼田で集い)

江成道会長)の第47回群馬緑蔭禅の集いが20日、沼田市の迦葉山龍華院弥勒護国禅寺で行われ、県内外から参加した53人が座禅や作務などに取り組んだ。



静まり返った座禅堂で座禅に取り組む参加者

「禅の集い」が上毛新聞に取り上げられました。(記事の一部)